

元気にな〜れ! 小説150冊贈る

山古志の小・中学に南魚沼・NPO法人

南魚沼市のNPO法人「南魚沼もてなしの郷」のメンバーがこのほど、中越地震をきっかけに交流している長岡市山古志小・中学校を訪れ、湯沢町の観光やイベントで活躍する一九五九年度のポネットバスを主人公にした小説百五十冊を寄贈した。贈呈式ではバスも登場し、実際に乗った子どもたちは、レトロな雰囲気に歓声を上げていた。

をしている人たち...
気になった人たちをちりよ

えられませんでした。でも まわらないように見なおしを
自学などでたくさん漢字を するようにしています。
.....岡 長

被災した君たちも登場するよ

寄贈した小説は「海を抱いたビー玉」^{きんぎょ} といったポネットバスと少年たちの物語」。愛媛県で運行され、広島県の博物館で展示されていたポネットバスが修理され、再び走り出すまでを描いている。

ポネットバスを運行する「南魚沼もてなしの郷」では、震災に遭った山古志の子どもたちを元

贈呈式に登場した小説の主人公のポネットバス。山古志小の児童たちが乗り心地を楽しんだ。長岡市山古志竹沢



気づけようと、一昨年からしている。小説には被災した同市へ川遊びに招待した山古志の少年も登場する。贈られることになった。

贈呈式では小説を書いた作家森沢明夫さん(三)も出席し「この本を読んで人生を幸せにする方法を見つけてほしい」と子どもたちに語りかけた。

小学六年の齋藤康輔君(二)が「自分たちが体験した地震や川遊びのことが書いてあるといつので楽しみ。早速、読みたい」と代表してお礼の言葉を述べた。

式典後は子どもたちがバスに乗り込み、地域内を巡回。小学一年の坂牧元紀君(七)は「ゴトゴト揺られて気持ちよかったです。学校にもこのバスで通いたい」と喜んでいました。

主人公は「レトロ」に歓声

ポネットバスは